

高齢社会における森林空間の利用に関する調査報告書（要旨）

林野庁

1 調査の概要

(1)趣旨

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中で、健康づくりの場として森林空間を利用することへの期待が高まっており、特に、急速に高齢社会が進む中で中高年齢者の自然回帰志向が顕著になっている。さらに、一部の医療・福祉機関等において老人性疾病の予防や介護に、森林浴等の効果を活用しようとする動きが見られるなど、健康の維持増進のための森林空間の活用は、今後、発展が期待される分野となっている。しかしながら、医療・福祉機関等による森林空間の利用状況についての全国的な実態に関する情報は、極めて限られているのが現状である。このため、このような森林空間の利用に関する国内外の実態や動向の把握を行うとともに、医療・福祉機関等と連携しつつ森林空間の利用を推進する手法について調査、検討する。

(2)調査委員会

委員長	箕輪光博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
委員	今井通子	東京女子医科大学非常勤講師
	上原 巖	東海女子大学人間関係学部専任講師
	大石康彦	(独)森林総合研究所東北支所 環境教育機能評価担当チーム長
	下村洋之助	群馬県立医療短期大学教授
	富岡幸生	(財)日本健康開発財団専任講師
	森田えみ	京都大学大学院医学研究科
事務局	社団法人	全国森林レクリエーション協会

(3)実施年度 平成 13 年度～14 年度

(4)調査の内容

医療・福祉機関等と連携した森林空間の利用に関する全国的な実態の把握と分析（医療・福祉機関等へのアンケート調査の実施）

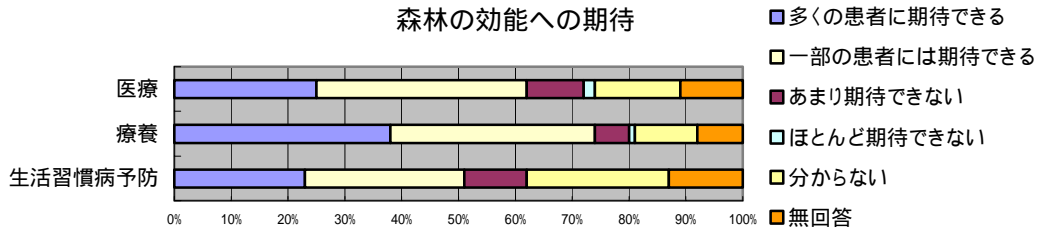
医療・福祉機関等と連携して森林空間の利用を推進するために必要な諸条件の検討、
を踏まえ、高齢社会における森林空間の利用を推進する手法について調査・検討

2 調査の結果

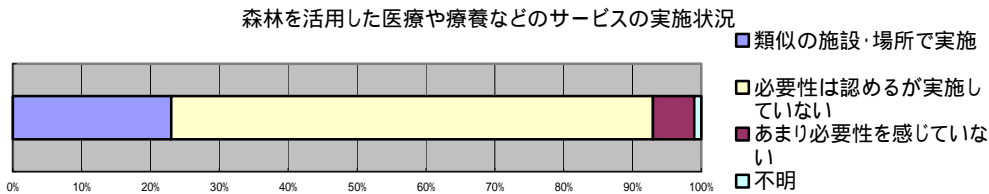
(1) 医療・福祉機関等に対するアンケート調査

全国 119 医療機関に対して「高齢者向け医療、療養などのサービスと森林の活用」についてアンケート調査を実施したところ、その結果は、次の通りであった。

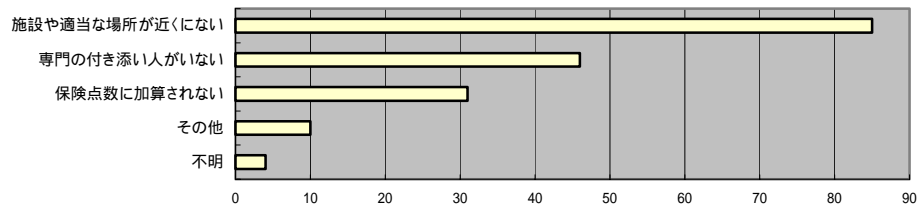
医療、療養、生活習慣病予防等に森林を利用することに対する医療機関の期待は 50～70%（調査対象の医療機関に対する構成比、以下同じ）と高い。



このように森林への高い期待にもかかわらず、実際に森林を活用している事例は極めて少ない。公園等における野外活動を行っている医療機関でも 23% に止まっている。その理由としては、森林が整備されていない（85%）、専門の付き添い人がいない（46%）、保険点数の対象にならない（31%）などが挙げられる。

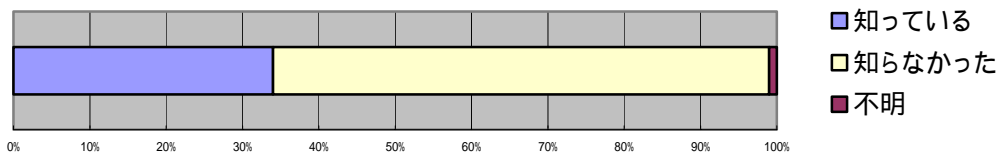


森林を活用したサービスの必要性を認めながら実施していない理由(複数回答)



医療・福祉関係者におけるバリアフリーに配慮した森林・施設に対する認知度は 34% と低く、普及活動が必要である。

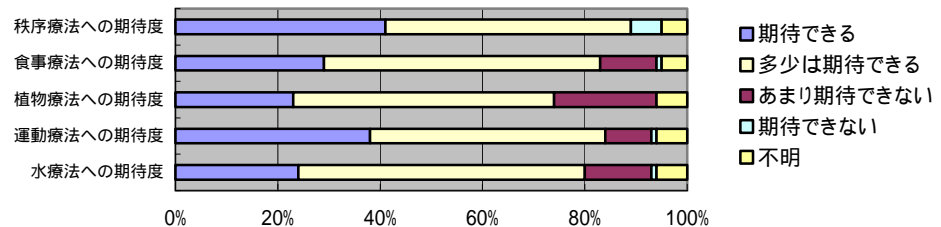
バリアフリー型森林の認知状況



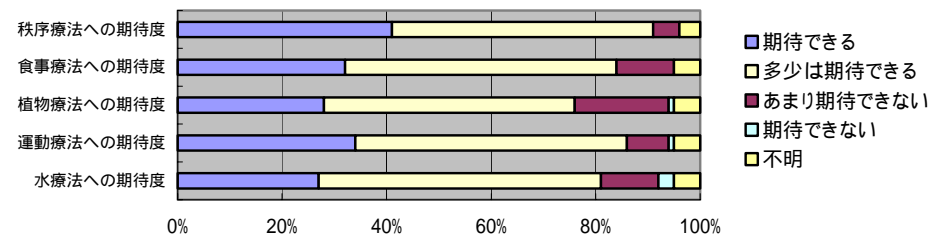
ドイツにおける森林を活用したクナイプ療法に対する医療、療養面の森林の効用については「多少なりとも期待できる」を含めると72～91%と高い。

クナイプ療法とは、ドイツにおいて保険適用が可能な健康・保養療法として認められている療法で、森林環境を利用して治療・リハビリを行う。人間の持つ自然治癒力を最大限に引き出すことを目的に5つの療法を实践する。

医療面におけるクナイプ療法に対する評価



療養面におけるクナイプ療法に対する評価



医療・療養活動の場として理想的な森林としては、美しい自然環境を有し、小動物とも触れ合えるような明るい森林が支持されている。等が明らかとなり、医療・福祉機関等の森林空間の利用に対する期待が高いことが分かった。

(2) 高齢社会に向けた森林空間の活用に関する課題

アンケート調査結果及び事例調査結果を基に検討した医療・福祉機関等と連携しつつ高齢社会に向けた森林空間の活用を推進するための課題は、次の通りである。

ア 森林整備に関する課題

現在のところ、医療、療養・保養、生活習慣病予防等といった明確な目的を持って整備された森林は見当たらない。しかしながら、森林の持つ効用に対する期待は高く、利用に対する潜在的なニーズも高いことから、目的に応じた森林整備を行う必要がある。

森林と病院との距離が近いことやバリアフリーへの配慮については、いずれの病院においても利用する場合の前提条件と考えていること。

医療、療養・保養、生活習慣病予防等に森林空間を利用する場合の望ましい森林としては、気分転換や運動負荷の調整ができるような多様性を持つ森林が望ましい。また、寺社仏閣等と組み合わせることも有効であるとの意見もある。

イ 森林空間の利用に関する課題

人間の心身への森林の効用は、次第に明らかになりつつあるものの、科学的な調査・研究例やデータの蓄積量が不十分であり、医療機関等と連携しつつ森林空間が人間の健康に及ぼす効用について、今後、実証研究を進める必要がある。

一部に見られる園芸療法や健康保養ツアーなど福祉や介護分野にも、具体的な森林空間の利用の提案が求められている。

森林空間での活動を行うために必要な基礎的な医学の知識、安全対策、森林環境等に関する知見を有する人材の育成が必要である。

保養・療養の場として森林を活用するためには、地域の医療機関、観光業などのサービス業、地域のボランティア、NPO及び地方自治体などの広範な連携が必要である。

(3) 高齢社会に向けた森林整備の方向

高齢社会の進展に伴う医療や介護における費用負担の増加への懸念や健康の維持増進に対する国民の関心の一層高まり、また、健康増進法の制定により、都道府県及び市町村による健康増進計画策定が義務付けられることなどから、医療、療養・保養、生活習慣病予防等において森林空間を活用することが求められており、このような活動の場として適した森林を整備することが必要である。

森林の整備にあたっては、中高年齢者の心身の状態に合わせて森林空間を利用した健康づくりができるように、利用目的（医療・福祉、療養・保養及び生活習慣病予防）に応じた適切な整備を行う必要がある。特に、医療等を目的とする森林については、計画の段階から医療機関との連携を図ることが不可欠である。また、療養・保養を目的とする森林については、医療・福祉機関や地方公共団体等との連携を図り、中高年齢者への医療サービス等の提供や地域振興にも資するような森林空間の活用を行うことが重要である。これらの医療・福祉分野において森林空間を利用した健康の維持・管理等を行う活動を、森林療法（フォレストセラピー）、その担い手となる人材を森林療法士（フォレストセラピスト）と呼称する。森林療法士については、理学療法士や森林インストラクターなど医療と森林分野の既存の技術者に対して、両分野の基礎的な知識・技術を習得させることにより育成する。

なお、森林の効用については、次第に明らかになりつつあるもののフィトンチッドの効果など限られた報告があるにすぎない。このため、医療・福祉、療養・保養、生活習慣病予防を目的とした森林の整備に当たっては、科学的な調査・研究にもあわせて取り組み、森林の効用をより発揮させうる森林の姿を明らかにする必要がある。

(4) 高齢社会に向けた3つの森づくり構想

中高年齢者の身体機能の程度を「疾病や加齢等に伴い医療や介護が必要」、「病後の体力回復等の療養・保養が必要」、「生活習慣病の予防（健康づくり）が必要」に大別し、それぞれに対応する「医療・福祉の森」、「療養・保養の森」及び「生活習慣病予防の森（健康づくりの森）」の3タイプの森づくり構想、及び、その森林において行う「森林活用プログラム」を提案する。